

令和 7 年度第 2 回成田市環境審議会

【令和 7 年 11 月 5 日（水）】

環境審議会委員からの意見及び回答

成田市環境部

番号	委員名	資料名
1	藤村 葉子 委員	資料 1 2024（令和6）年度 成田市役所エコオフィスアクション（第5次成田市環境保全率先実行計画）結果
該当頁	第5頁	

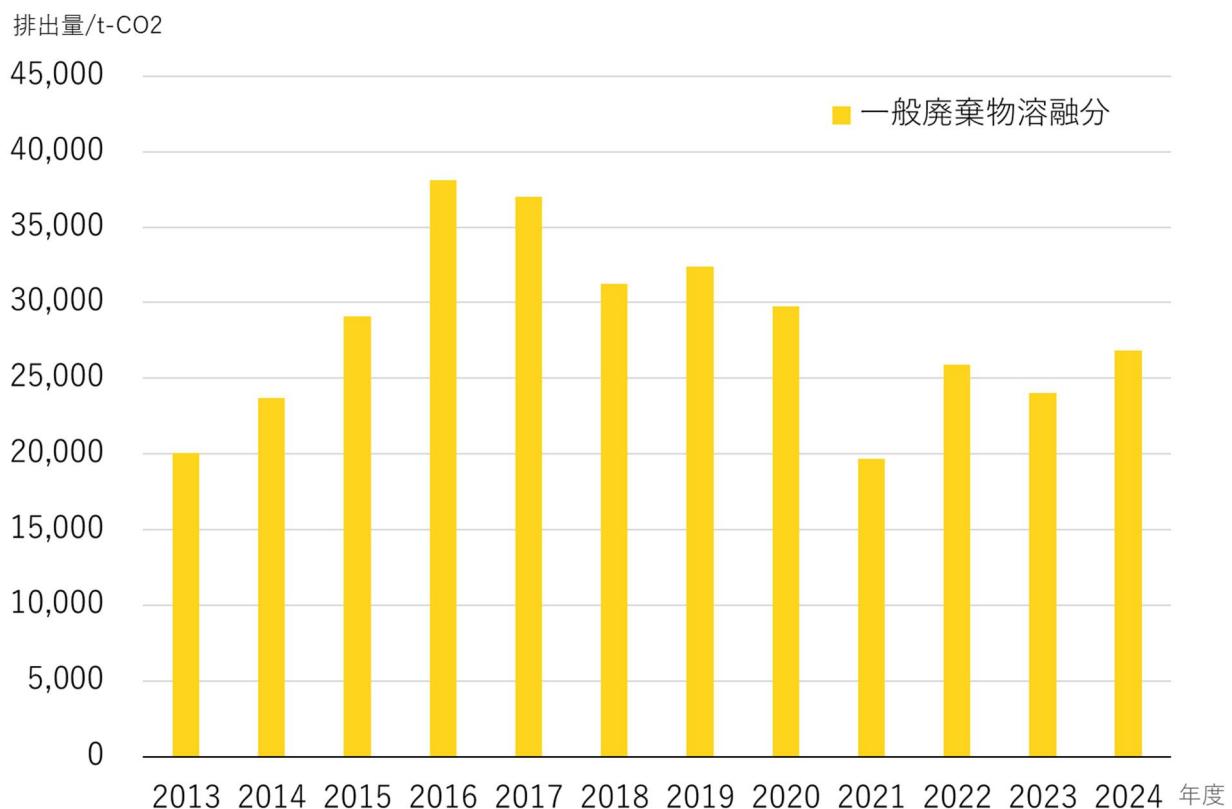
【意見・質問】

5ページの1-2-3 一般廃棄物溶融分について、一般廃棄物溶融分についての記述が表5の2013年と2024年の比較のみであるのは説明不足であると思います。2013年から2024年までの一般廃棄物溶融分のCO2の変化のグラフを出していただきたいと思います。

また、33.5%も増えてしまった原因についてもう少し詳しい説明が必要と思われます。目標を定めているにも関わらず、それを達成できない理由があるのであれば、それを説明した方がいいと思います。

【回答】

2013 年度から 2024 年度まで的一般廃棄物溶融分の温室効果ガス排出量の推移については以下グラフのとおりです。



次に基準年度と比べ温室効果ガスが 33.5% 増となった理由についてですが、一般廃棄物分の温室効果ガス排出量のほとんどは廃プラスチック類由来の二酸化炭素です。温室効果ガス排出量の増加は基準年度と比べ廃プラスチック類の量(推計)が増えたことによりますが、増加した理由については、市で把握しているデータ等では特定できませんでした。

本市では 3R 推進の取組の一つとして容器包装プラスチック類の収集頻度を上げるなどの対策を行ってきたところですが、これは一般廃棄物溶融分の温室効果ガス排出量削減にも大きく貢献するものですので、今後もごみの分別ガイドブックやホームページ、広報、行政回覧を活用した周知や、廃棄物減量等推進員を通じた啓発などにより、市民一人一人の資源物の分別徹底の意識付けを図り、ごみの減量化を進めたいと考えております。

番号	委員名	資料名
2	藤村 葉子 委員	資料 1 2024（令和6）年度 成田市役所エコオフィスアクション(第5次成田市環境保全率先実行計画)結果
該当頁		

【意見・質問】

今後のエコオフィスアクションについて、次回の計画を見直す年度では、オフィスアクションの計画をオフィス編と一般廃棄物編で完全に分けて、目標基準についての見直しなどそれぞれの計画と対策を立ててはどうですか。

【回答】

質問番号1への回答でも説明したとおり、一般廃棄物分に係る温室効果ガスはほとんどが一般廃棄物のうちの廃プラスチック類に由来するものですので、これを減らすためにはごみの減量化や容器包装プラスチック類の分別回収・リサイクルが有効です。

ごみの減量やリサイクルなど3Rについては、成田市一般廃棄物処理基本計画において「ごみ発生抑制・再使用を基本とした3Rの推進」を基本方針の一つとし、ごみ分別の徹底やリサイクル教室の実施、ごみ分別区分についての調査検討などを取組方針として掲げており、現行の成田市役所エコオフィスアクションでは、成田市一般廃棄物処理基本計画におけるごみ減量や容器包装プラスチック類の回収量の目標値を用いて一般廃棄物分の温室効果ガス排出量の目標値を算出しております。

現行の一般廃棄物処理基本計画は令和9年度までの計画であり、今後次期計画を策定する予定のため、一般廃棄物溶融分の温室効果ガス排出量と表裏一体である3Rの取組についてこの中で検討してまいりたいと考えております。